

授業科目	看護学研究法 I Nursing Research Methodology I	1 学年	前期	必修	30 時間	2 単位
担当教員	【氏名】	【所属】	【氏名】	【所属】		
<p>【到達目標】 修士課程における学修と研究を通して修得した研究方法論を基盤として、さらに高度な看護学研究を自立して遂行する能力の修得に向け、次の目標の到達を目指す。尚、看護学研究法 I は質的研究に着眼して授業を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護学の発展に向け、看護学研究の意義を再確認する。 2 質的研究の適用が可能な研究課題について理解する。 3 質的研究方法論各々（グラウンデッド・セオリー、現象学的アプローチ、内容分析など）の特徴について理解する。 4 質的研究方法論を適用した国内外の研究論文を精読し、クリティークする。 5 国際学会への参加の基盤となる英語力を修得する。 						
<p>【授業概要】 博士の学位を持つ看護専門職として、看護学研究の意義と研究能力獲得の必然性を再確認するとともに、特に質的研究の遂行能力獲得に向け、質的研究方法論各々とその特徴を理解するために必要な内容を学習する。また、研究論文をクリティークする能力の獲得に向け必要な内容を学習する。準備学習が必須の科目である。</p>						
【授業計画】						
回数	授業形態	学習課題	学習内容		備考	
1	講義	授業概要の理解	1. 看護学研究法 I の概要 2. 授業の進行と準備学習			
2	講義	質的研究の魅力とその実際	1. 質的研究と量的研究 2. 質的研究の適用 3. 理論開発における質的研究の位置づけ 4. 質的研究方法論を適用した看護学研究		課題 レポート (英文)	
3・4	講義	質的研究の方法論とその方法論を用いた研究 1	<p>【事前学習】 「舟島なをみ著：質的研究への挑戦」の閲読</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究方法論とは何か 2. グラウンデッド・セオリー <ol style="list-style-type: none"> ①グラウンデッド・セオリーの概要 ②グラウンデッド・セオリーによる研究 3. 現象学的アプローチ <ol style="list-style-type: none"> ①現象学的アプローチの概要 ②現象学的アプローチによる研究 			
5・6	講義	質的研究の方法論とその方法論を用いた研究 2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内容分析 <ol style="list-style-type: none"> ①内容分析の概要 ②内容分析による研究 2. その他の方法論 <ol style="list-style-type: none"> ①看護概念創出法、KJ 法の概要 		小テスト	

7	講義	国内外の質的研究のクリティーク	【事前学習】 学生個々の関心に基づく、質的研究方法論を用いた研究論文の検索と選択、選択した論文の閲読とクリティーク、資料の作成	
8-14	演習 (発表・討議)		1. 研究論文のクリティーク 2. 要旨の音読 3. 学習成果の発表と討議、講評	
15	講義	質的研究遂行に向けての課題	各自の課題の明確化	最終 レポート
<p>【評価方法、評価基準】 課題レポート：テーマ「質的研究の意義と適用」25%、最終レポートテーマ「看護学研究法 I における学習成果」50%、出席を含む授業への参加状況 25%</p>				
<p>【テキスト】 舟島なをみ著：質的研究への挑戦第2版、医学書院、2007.</p>				
<p>【参考書・資料等】 適宜紹介する。</p>				
<p>【受講、課題、資料配布等のルール】 双方向通信システムによる遠隔授業とする。その他、初回開講時に説明する。</p>				
<p>【教員からのメッセージ】 シラバスを精読するとともに、課外学習の時間の確保が必須な科目である。</p>				
<p>【オフィスアワー】 木曜日の在室時は、可能な限り対応する。</p>				

授業科目	看護学研究法Ⅱ Nursing Research MethodologyⅡ	1 学年	前期	必修	30 時間	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎高柳 智子	【所属】 新潟県立看護大学	【氏名】	【所属】		
【到達目標】						
1. 量的研究ならびにミックスメソッドについて理解を深め、信頼性と妥当性を担保した研究設計を考えることができる。 2. 看護学研究者として必要な研究倫理への理解を深め、研究プロセスに内包する倫理的課題と対応について検討・吟味できる。						
【授業概要】						
実証主義から発展し現象を記述・説明・予測・統制する量的研究手法や、質的デザインと量的デザインを統合したミックスメソッドについて理解を深める。加えて、研究する事象に即した測定ツールおよび収集・分析方法を信頼性・妥当性の側面から検討する。さらに、看護学研究者として、誠実で責任ある研究を推進していくために必要な研究倫理について探究する。						
【授業計画】						
回数	授業形態	学習課題	学習内容	備考		
1・2	演習	研究倫理	研究者の行動規範、日本における倫理指針、倫理的行動に導く知識と技術			
3		研究のパラダイムと方法論	量的研究の哲学的背景とその適用			
4・5		量的研究デザインの選択	記述的デザイン、相関関係的デザイン、実験研究、成果研究			
6・7		研究の枠組み	量的研究における目的・課題・仮説の設定、枠組みのクリティーク			
8・9		量的研究における厳密性の確保(信頼性・妥当性)	標本抽出、測定ツールと測定方略			
10・11		量的研究におけるデータ分析	統計手法の選択と解釈			
12・13		量的研究デザインを用いた研究論文の批判的分析	量的研究論文のクリティーク			
14		ミックスメソッド	ミックス法の種類と適用、学問的論点			
15		ミックスメソッドを用いた研究論文の批判的分析	ミックス法を用いた研究論文のクリティーク			
【評価方法、評価基準】						
課題レポート・プレゼンテーション 50%、討議の内容 50%						
【テキスト】						
適宜紹介する。						
【参考書・資料等】						
適宜紹介する。						
【受講、課題、資料配布等のルール】						
毎回、授業内容に沿った予習および課題を行ったうえで、参加してください。						

【教員からのメッセージ】

学習課題を自ら探究するとともに、意見交換を通して学びを発展させていきましょう。

【オフィスアワー】

火曜日の在室時は、可能な限り対応(メール連絡も可能)

授業科目	保健医療福祉政策論 Health, Medical and Welfare Policy Theory		2 学年	前期	必修	30 時間	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎瀧口 徹 藤谷 克己	【所属】 新潟医療福祉大学 文京学院大学	【氏名】 石上 和男	【所属】 新潟医療福祉大学			
【到達目標】							
<ol style="list-style-type: none"> 1. わが国の保健医療福祉のシステム・政策の現状を理解し、それらが策定された歴史・背景、立案プロセス、行政システム構築、評価を説明することができる。 2. 地域のヘルスケアニーズを明確にし、保健医療福祉政策が地域社会と看護の現場に及ぼす影響を説明することができる。 3. 保健医療福祉政策に関連する過去の法案、制度などを取り上げ、政策決定プロセスにおける影響要因や課題を分析することができる。 4. 保健医療福祉の包括的システム構築に資する知見と考え方を論述することができる。 							
【授業概要】							
<p>少子高齢化、経済の低成長、ヘルスケアニーズの複雑化・多様化等によって、わが国の社会保障制度及び保健医療福祉政策の変革が急務になっている。その現状と課題を明らかにするとともに、保健医療福祉のシステム/政策が策定された歴史・背景、立案プロセスに関して理解を深める。また、地域の保健医療福祉政策が地域社会と看護の現場に及ぼす影響について分析し、政策・施策立案過程における看護職の役割、影響を及ぼすための戦略について考察する。今後進展するとみられる地域包括ケアシステム構築に対する看護の役割と機能、課題について検討する。</p>							
【授業計画】							
回数	授業形態	学習課題	学習内容	備考			
1-3	演習	わが国の保健医療福祉システム・政策の現状と課題	わが国の政治社会経済の構造と機能の変化、今後の進展	瀧口			
4-6		ヘルスケアニーズと政策化/施策化	地域のヘルスケアニーズの明確化と、保健医療福祉政策が地域社会と看護の現場に及ぼす影響の分析	石上			
7-9		政策/施策立案過程における看護職の役割	地域のヘルスニーズから保健医療福祉の政策/施策立案過程における看護職の役割、影響を及ぼすための戦略	藤谷			
10-12		保健医療福祉の包括的システム構築	今後の保健医療福祉の包括的システムにおける、看護の役割と機能、課題と展望についての理解	瀧口			
13-15		保健医療福祉の包括的システム構築	今後の保健医療福祉の包括的システムにおける、看護の役割と機能、課題と展望についての理解	瀧口			
【評価方法、評価基準】							
レポート 50%、プレゼンテーション 30%、討議 20%。							
【テキスト】							
看護職者のための政策過程入門（見藤隆子著）							
【参考書・資料等】							
(株)ウイネット社 アクティブ公衆衛生学ラーニング 医療関係全職国家試験(資格試験)難問化対応 編者:藤谷克己 瀧口 徹 教授、共著者:石上和男、平田幸夫 他 3,000 円+消費税							
【受講、課題、資料配布等のルール】							
プレゼンテーション資料は、発表当日に持参すること。							

【教員からのメッセージ】

積極的な討議を期待します。講義前に「看護者のための政策過程入門」などの図書を読んでおくこと。

【オフィスアワー】

授業科目	看護学教育論	2 学年	後期	必修	30 時間	2 単位																									
担当教員	【氏名】 担当教員未定	【所属】	【氏名】	【所属】																											
<p>【到達目標】</p> <p>世界の看護学教育の現状の理解を前提として、看護基礎教育・卒後教育・継続教育の展開に必要な知識・技術を修得し、将来、日本の看護学教育を牽引できる看護職者としての能力の基盤を形成するために次の目標の到達を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学教育 3 領域（看護基礎・卒後・継続教育）各々の特徴と質の高い看護職者養成に向けた 3 領域が果たす役割を論述する。 2. 看護学教育先進国と日本の看護学教育の現状を比較分析し、日本における看護学教育の課題を考察する。 3. 看護学教育 3 領域の基盤となる教育の理論と知識、技術を修得する。 （教科の構造・教育目標分類学・カリキュラム編成・授業計画立案・看護継続教育プログラム立案） 4. 看護学研究指導に必要な知識と技術の概要を学習し、看護学博士の学位を持つ看護職者として看護学研究指導能力獲得の重要性を論述するとともに、研究指導能力獲得に向けた課題を 3 項目以上列挙する。 5. 1 から 4 の学習を通して教育を牽引できる看護職者の具備すべき要件を論述する。 																															
<p>【授業概要】</p> <p>看護基礎・卒後・継続教育 3 領域の教育の展開、またその展開を牽引できるリーダーとしての資質を修得するために必要な内容を学習する。講義のみならず演習や討議といったアクティブラーニングの手法を積極的に取り入れる。事前準備が重要な授業である。</p>																															
<p>【授業計画】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業形態</th> <th>学習課題</th> <th>学習内容</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>講義</td> <td>授業概要の理解 ・看護職者と教育</td> <td>1. 専門職と専門家 2. 看護専門職者にとっての教育に関する知識の必要性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2-4</td> <td>講義</td> <td>看護学 3 領域の特徴と質の高い看護職者養成に向けた 3 領域が果たす役割</td> <td>1. 看護学 3 領域の特徴、共通点と相違点 2. 質の高い看護職者養成に向けた 3 領域が果たす役割</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5-7</td> <td>演習 (発表・討議・講評)</td> <td>看護学教育先進国の現状と課題</td> <td>【事前学習】 アメリカ・カナダ・オーストラリアなど看護学教育先進国の情報収集と現状把握と資料作成 1. 調査結果の発表と討議 2. 講評</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8-10</td> <td>演習 (発表・討議・講評)</td> <td>日本の看護学教育の現状と課題</td> <td>【事前学習】 日本の看護学教育の情報収集と現状把握と資料作成 1. 調査結果の発表と討議 2. 講評</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							回数	授業形態	学習課題	学習内容	備考	1	講義	授業概要の理解 ・看護職者と教育	1. 専門職と専門家 2. 看護専門職者にとっての教育に関する知識の必要性		2-4	講義	看護学 3 領域の特徴と質の高い看護職者養成に向けた 3 領域が果たす役割	1. 看護学 3 領域の特徴、共通点と相違点 2. 質の高い看護職者養成に向けた 3 領域が果たす役割		5-7	演習 (発表・討議・講評)	看護学教育先進国の現状と課題	【事前学習】 アメリカ・カナダ・オーストラリアなど看護学教育先進国の情報収集と現状把握と資料作成 1. 調査結果の発表と討議 2. 講評		8-10	演習 (発表・討議・講評)	日本の看護学教育の現状と課題	【事前学習】 日本の看護学教育の情報収集と現状把握と資料作成 1. 調査結果の発表と討議 2. 講評	
回数	授業形態	学習課題	学習内容	備考																											
1	講義	授業概要の理解 ・看護職者と教育	1. 専門職と専門家 2. 看護専門職者にとっての教育に関する知識の必要性																												
2-4	講義	看護学 3 領域の特徴と質の高い看護職者養成に向けた 3 領域が果たす役割	1. 看護学 3 領域の特徴、共通点と相違点 2. 質の高い看護職者養成に向けた 3 領域が果たす役割																												
5-7	演習 (発表・討議・講評)	看護学教育先進国の現状と課題	【事前学習】 アメリカ・カナダ・オーストラリアなど看護学教育先進国の情報収集と現状把握と資料作成 1. 調査結果の発表と討議 2. 講評																												
8-10	演習 (発表・討議・講評)	日本の看護学教育の現状と課題	【事前学習】 日本の看護学教育の情報収集と現状把握と資料作成 1. 調査結果の発表と討議 2. 講評																												

11-13	演習 (発表・討議・講評)	看護学教育の基盤となる教育の理論と知識、技術	【事前学習】 教科の構造・教育目標分類学・カリキュラム編成・授業計画立案・看護継続教育プログラムの開発に関する文献の閲読と資料作成 1. 学習成果の発表と討議 2. 講評	
14・15	講義	看護学研究指導方法論 まとめ	【事前学習】 舟島なをみ著：研究指導方法論、医学書院、2015.の閲読 1. 研究指導能力の獲得の必要性 2. 研究指導の構成要素	最終レポート
【評価方法、評価基準】 発表とその資料 25%、最終レポートテーマ「看護学教育論における学習成果」50%、出席を含む授業への参加状況 25%				
【テキスト】 舟島なをみ監修：看護学教育における授業展開、医学書院、2013. 舟島なをみ監修：院内教育プログラムの立案・実施・評価第2版、医学書院、2015. 舟島なをみ著：研究方法指導方法論、医学書院、2015.				
【参考書・資料等】 杉森みど里他著：看護教育学第6版、医学書院、2016.				
【受講、課題、資料配布等のルール】 双方向通信システムによる遠隔授業とする。資料等は、適宜説明する。				
【教員からのメッセージ】 シラバスを精読するとともに、課外学習の時間の確保が必須な科目である。				
【オフィスアワー】 木曜日の在室時は、可能な限り対応する。				